



市婦人会館（馬堀町1丁目6番3号）売却に反対する為の陳情書

陳情の趣旨

2011年8月10日市長参加の車座会議が天津行政センターで行われました。その場で会場の質問に答えて市長は天津行政センターを新築移転すること。その財源として、現行政センターと婦人会館を売却すると答えました。嘗て市長は建て替<sup>か</sup>えではなく、耐震の調査をして持たせる方向であると言明しました。まして、市の財政赤字を抱え、市民の負担はいっそう重くなるばかりの状況があると思います。そのような中で、しかも、本庁舎ではない支所的な現行政センターに近隣の住民はバリアフリー以外何の不都合も感じていません。東京都でさえ、区の役所に天津行政センター並みのものがそのまま活用されているものがあります。

その中で、新築移転の財源に文化財級の歴史的遺産、市婦人会館を売却するという事は、市制110年を超える横須賀市制始まって以来の暴挙です。歴代の市長はこのような暴挙を行ったことはありません。

横須賀市制誕生とほぼ同年に建造された婦人会館は芥川賞、直木賞を設定し、文芸春秋社を創設した文豪菊池寛の小説「不壊の愛」にも登場します。110年間以上、関東大震災にも耐えて市民に広範囲に今なお愛着を持たれて活用されているものです。明治40年に創建された別荘建築の典型的な和風様式で、その庭園の松17本含め、市内では稀少価値のものです。建築文化研究所によると、横浜市金沢区野島にあって、新築リニューアルオープンされた、史跡指定、伊藤博文別荘跡の元の建築様式と同じものと言う評価をされています。文化財保護法は保存活用を提起しています。

現行政センターとそのコミュニティ機能を補強もしつつ、天津地域の文化や歴史に根づいてきた歴史の語り部的存在で、その機能だけ移転できるようなものではありません。婦人会館の庭園と同じような、相模原市の旧陸軍士官学校校舎・庭園は市指定遺跡となっています。天津行政センター新築移転の為の市婦人会館売却に反対します。地域住民の願いを踏みにじる以外のないものでもない行為であり、市制に汚点を残すものと言っても過言ではないと思います。

市婦人会館維持費は年間200万円と聞いています。有料にしてでも保存活用できるよう切望します。

(署名を添えて)

陳情項目1) 市婦人会館（馬堀1丁目6番3号）売却に反対すること。

2011年11月18日

横須賀市議会議長 山口 道夫様

~~市年金者組合サークル食事会トマト代表長井孝子（市内池上2-6-3）~~

住みやすい天津の街を作る会代表原田弓子（市内天津町3-11-15）



外 1,224名